

令和6年9月 教育委員会定例会会議録

1 開会の日時

令和6年9月19日（木） 午前9時30分

2 出席委員

新 倉	聡	教育長
荒 川	由美子	委 員（教育長職務代理者）
澤 田	真 弓	委 員
川 邊	幹 男	委 員
元 木	誠	委 員

3 出席説明員

教育総務部長	古 谷 久 乃
教育総務部総務課長	加 藤 博 昭
教育総務部教育政策課長	飯 田 達 也
教育総務部生涯学習課長	杉 山 賢 一
教育総務部教職員課長	筒 井 宣 行
教育総務部学校管理課長	二 見 裕 一
学校教育部長	坂 下 裕 一
学校教育部教育指導課長	鈴 木 史 洋
学校教育部支援教育課長	原 口 尚 延
学校教育部保健体育課長	小 田 耕 生
学校教育部学校食育課長	高 橋 大 歩
学校教育部教育情報担当課長	矢 本 美 奈
中央図書館長	柿 原 美 奈
博物館運営課長	北 山 剛 子
教育研究所長	梅 谷 尚 子

4 傍聴人 0名

５ 議題及び議事の概要

- 教育長 開会を宣言
- 教育長 本日の会議録署名人に元木委員を指名した。

○ 教育長報告

(新倉教育長)

それでは、８月の定例会から本日までの間の所管事項について報告をいたします。

お手元の定例会教育長報告資料をご参照いただければと思います。

まず、市議会関係ですけれども、現在、９月定例議会が開催されております。

昨日の９月18日の本会議におきまして、先般ご審議いただきました市立学校設置条例につきましては、改正議案が成立いたしましたので、来年３月末をもって、大楠幼稚園、田浦小学校と走水小学校を、市が廃校という形にさせていただいたところです。今後、校歌ですとか、校章の扱いについては、まだ検討課題が残っておりますので、それぞれの学校運営協議会においてお諮りをお願いしているところです。

教育委員会関係としましては、９月５日に第２回公立高等学校設置者会議が神奈川県において開催されました。生徒数の減少によって、来年度の募集人員が550名の減とされています。これまで公立学校で全て受け持っていたんですが、さすがにちょっとできないということがありまして、公立学校500名、私立の学校で50名の減ということで、合意を取ったところです。この概要につきましては、来月の定例会におきまして、市立横須賀総合高等学校の定員募集等に対しましての議決をお願いすることとなっています。

学校関係の行事としましては、８月24日に、第37回子どものための音楽会が文化会館で開催されました。荒川委員にもご出席いただきまして、ありがとうございました。例年ですと、芸術劇場で行われたものでしたが、今年度は、現在、天井の改修工事に入るということで、今年、来年が使えないという状況が生まれております。そんな中でも子どもたちの元気な姿はとても頼もしかったと思っています。

私からの報告は以上です。

(質問なし)

教育長 報告事項を聴取することを宣言

報告事項（１）『横須賀市学校給食運営審議会への諮問について』

（学校食育課長）

それでは、報告事項（１）『横須賀市学校給食運営審議会への諮問について』ご報告いたします。

まず１、経緯をご覧ください。

学校給食で使用する食材は、保護者等から徴収する給食費により賄っています。現在、小学校、特別支援学校は平成30年４月、中学校は令和３年10月に改定した給食費により運営していますが、昨今の物価高騰の影響により、現状の給食費による運営が難しい状況になっています。

給食費は横須賀市給食条例により、教育委員会の附属機関である横須賀市学校給食運営審議会が審議し、規則で定めることとされていますので、このたび適切な給食費について諮問するものです。

次に、２、諮問の趣旨についてです。

学校給食の目標は、適切な栄養摂取による健康の保持増進や正しい食習慣の形成、好ましい人間関係の育成等といった食育の推進を図ることにあります。それに加え、子どもたちにおいしい給食を提供することも横須賀市の使命と考えております。これまでの給食費の改定は、適切な栄養摂取に重点を置き、栄養価を満たすための価格を設定してきました。

今回の審議会では、適切な栄養摂取や食育の推進は当然のこととして、子どもたちが給食を楽しみにして、おいしく食べることができるような献立を提供するための適切な価格設定という新しい視点から諮問するものです。

諮問文の案については、報告資料の２枚目に添付しておりますので、後ほどご覧ください。

次に、３、給食費の検討についてご説明いたします。

審議会に諮問し、審議をしていただいた後、出される答申を受けまして、教育委員会が改めて検討を行い、総合教育会議等で保護者の負担や改定時期について、市長と協議いたします。答申が出され次第、改めてご報告いたします。

裏面をご覧ください。

４、過去の給食費改定について、参考に記載いたしました。

また、５、決算見込額についてとし、近年の給食食材費の支出状況について記載いたしております。令和４年度、令和５年度の給食食材費については、物価高騰対策として、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当し、支出いたしました。給食食材費に対する臨時交付金の充当額は表に記載のとおり

です。

以上で説明を終わります。

(新倉教育長)

私から確認ですけれども、2 ページの決算の見込みで、臨時交付金を充当したということは、上段にある、例えば小学校だと、今、1 食260円の価格で賄えなくて、20円相当が市の持ち出しで出した。言い換えれば、280円を超えた金額で給食が提供されていた。同じように中学校だと、330円に対して23.97円を足した360円近くが1 食の単価にもうなっているということを読み取っていいんでしょうか。

(学校食育課長)

教育長のおっしゃるとおりで、この1 食当たり交付金充当額を足したもので提供をしております。

(川邊委員)

小学校と中学校で単価が若干違うのは、これはどういうところから出ているんでしょうか。

(学校食育課長)

交付金充当額の違いにつきましては、中学校がそもそも少しずつメニューが違うところと、あとは多少入札による金額に差があるんですけれども、それを見越して献立を立てましたが、実質下がらなかったところがあります。

(元木委員)

質問ではなく意見なんですけど、保護者の立場としては、給食費が上がってしまうということは、家庭の負担が増えるというところで苦しい部分があります。ただ、先ほど説明の中にあったとおり、適切な栄養摂取だけではなく、子どもたちが給食を楽しみにして、おいしく食べることができるような献立というのもやはり大事なかなと思います。

実際、子どもが帰ってきて、給食どうだった、おいしかったという形で喜んでもらえる姿というのも、保護者としてもうれしい部分がありますので、ぜひ適切な価格設定をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

報告事項（２）『令和６年度（2024年度）学力等調査の結果について』

（教育指導課長）

令和６年度学力等調査の結果について報告いたします。

お配りしました資料は、今年度実施いたしました横須賀市立小・中学校学習状況調査及び全国学力学習状況調査の結果について、その概要をまとめたものです。

初めに、横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果について、説明いたします。

この調査は、本市が独自で実施しているものですが、他の自治体でも同一の問題を使用した調査が実施しており、各学年、各教科、おおむね13万人から20万人が参加しています。参加者全体の平均正答率などデータ提供を受けることができるため、これを全国状況とみなし、本市の結果と比較しています。

資料の２ページから７ページに、教科調査における本市全体の結果をまとめています。

各学年、教科ごとに示した数値は、上から、全国平均正答率、本市平均正答率、そして、全国平均正答率を100としたときの横須賀市の正答率、前年度の横須賀市の正答率の差を示しております。

さらに、小学校２年生と中学校１年生以外の学年については、同一集団における経年変化として、当該学年の前年度の状況との比較を示しています。学年、教科によって傾向は異なりますが、全学年教科において本市の児童・生徒の平均正答率は、全国の児童・生徒全体の平均正答率を下回っています。

それぞれの課題については、結果とともにお示ししていますが、全体的な傾向として、自分の考えや根拠を明確にして記述したり、条件に沿って作文を書いたりすることに課題が見られました。教科を問わず、日々の授業において自分の考えを表現する力、根拠を持って説明する力とともに、粘り強く課題に取り組む力を伸ばすことができるよう、引き続き授業改善を図ってまいります。

次に質問紙調査の結果についてです。

資料の８ページ、９ページに市全体の結果をまとめています。

８ページの表については、質問紙調査における質問を表に示すカテゴリーに分類し、各設問において肯定的な回答をした児童・生徒の割合を数値化し、さらに全国平均を50とする偏差値として算出した値を示しています。よって値が大きいほど肯定的な回答をした児童・生徒の割合が高く、また値が50に近いほど全国平均値に近いということになります。なお、発達段階に応じて設問が用意されているため、他者からの評価や社会参画に関わる設問は調査していない学年があります。

自己認識に関わる項目については、いずれの学年においても全国とほぼ同程

度でした。

次に、社会性に関わる項目のうち、対話・話し合いについてですが、学年が上がるにつれて値が上昇しており、各校の学習活動において、対話や話し合いが多く取り入れられ、児童・生徒がその意義を実感していると捉えることができます。

学級環境に関わる項目のうち、いじめのサイン、対人ストレスについては、全ての学年において全国平均を下回っており、いじめやその兆候、人間関係の不安を感じている児童・生徒の割合が全国と比較して高い可能性があります。一人一人の状況を積極的に把握し、適切な指導及び支援を行うことに努めてまいります。

生活・学習習慣に関わる項目のうち、学習習慣については、全ての学年において全国平均を下回っています。その下の学習意欲は、全国とほぼ同程度であることから、学習意欲を家庭学習の習慣にいかにつなげ、確立することができるか、家庭との連携について改善を図る必要があると考えています。

続いて、全国学力・学習状況調査の結果について説明いたします。

教科に関する調査については、11ページ、12ページに本市の結果をまとめています。今年度は小学校6年生で、国語と算数、中学校3年生では国語と数学の調査が実施されました。

いずれの学年、教科においても、全国の公立学校の児童・生徒全体の平均正答率を下回りました。しかし、中学校3年生においては全国とほぼ同水準であり、領域別に見ても同様でした。また、これまでは記述によって解答する問題の未解答率が高い傾向が見られましたが、国語においては全国と同水準であり、これまでの指導の成果が伺えます。

次に質問紙調査の結果についてです。

本市全体の結果と全国の結果との差が5ポイント以上である質問事項について、13ページから16ページまでにまとめました。

テレビゲーム、これはコンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含まれますが、これを行っている1日当たりの時間が全国平均値よりも高い傾向が見られます。

また、困り事や不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できると回答している児童・生徒の割合が低い傾向にあります。先ほどお示した市の調査の結果においても、いじめのサインや対人ストレスについて課題が見られているため、一人一人状況を積極的に把握し、適切な指導、支援を行うことに努めてまいります。

学校でPC、タブレットなどのICT機器を使用する頻度については、中学校3年生において、全国平均値を大きく上回っています。1人1台端末の整備から4年が経過した中学校においては、ICT機器が学習活動のツールとして定着

していることがうかがえます。今後はより効果的な活用や個に応じた指導等への活用について、一層の充実を図ってまいります。

最後に、ただいま説明いたしましたこれらの調査結果から読み取ることができる課題と、今後、必要な取り組みについて、17ページ、18ページにまとめました。

また、現在、教科調査の結果と質問紙調査の結果をクロス集計し、分析を行っています。この結果については、10月の定例会で改めてお示しする予定です。

ただいまご説明しました令和6年度の横須賀市立小・中学校学習状況調査、及び全国学力・学習状況調査の結果については、お手元の資料と同様のものを教育委員会ホームページに掲載し、市民へ広く周知するとともに、今後、各学校の実態に応じて、具体的な指導、助言、支援に努めていきたいと考えております。

以上で、令和6年度学力等調査の結果についての報告を終わります。

(澤田委員)

これらの課題と本市の今後の取り組みについて、各学校に、どのような機会に周知して具体的な取り組みとしていくのか教えていただければと思います。前年度も同様な事項が出ていましたが、前年度の取り組み状況について、併せて教えていただければと思います。

(教育指導課長)

そのような課題については、まず、各学校に学力向上の担当者がおります。年に数回、その担当者会を開いておりますので、そこで周知をし、具体的に改善についての助言をしているところです。

また、教育課程研究会であるとか、各教科の研修会等においても、これらの課題を現場の先生方にお伝えし、授業改善の視点として、指導主事が具体的に助言をしているというふうな形で改善を進めているといったところです。また、今後とも同様に取り組んでいく予定です。

以上です。

(澤田委員)

実際にどのように取り組んできたか、そして、その結果としてどうだったかが大切だと思うのです。各学校の取り組みについて、委員会は把握してるのか否か、お聞きしたいと思ったのです。例えば前年度、学校と家庭の連携が必要だというお話があったと思うのですが、保護者会や、各種家庭へのお知らせで伝えたのかということ把握しているのかということをお尋ねしたのです。

(教育指導課長)

一律に全ての学校でこの取り組みをお願いしますというふうな形ではないんですが、指導主事が各学校へ訪問して、学力向上に関する取り組みについて、個別に学校の担当者と協議をする中で、子どもたちの実態や地域性等に応じて、ふさわしい取り組みについて進めてきているところです。その中で、特に家庭との連携というふうなところに課題が見られる場合は、その取り組みを促すこともありますし、個別に把握はしておるところはあります。

(澤田委員)

家庭と学校との連携ももちろんですが、学力面で、学習指導要領で言われている資質・能力の3本柱、教科の見方・考え方について先生方は理解し、実際の授業改善につながっているのか、あるいはそれを学校の研究テーマとして扱っているのかどうかなど、見ていく必要があるのではないかと思ったところです。

(新倉教育長)

今の澤田委員のご質問って本当に厳しいというか、見ていただければ分かるかと思うんだけど、全国平均から見て、全国平均100にしたときに、それが98だ、99だというのは、まだ何とか分かるんです。だけれどもそれが10ポイントも差が低いっていうことが出ていると、全ての平均でしかないので、学校ごとで本来は出したいわけです。そのデータを表には出せないんだけど、教育指導課はちゃんとデータを持っているんだとすれば、100を超えている学校と、この平均値を押し下げている学校は何なのか。またその学校で何が取り組まれているのかということ、ご質問の趣旨は、ぜひ教育指導課が直接学校長なり学校に重点的に乗り込んで改善をさせない限り、変わらないんじゃないかということだと思うんです。それを押しなべて全ての校長にこうなさいよと言っても、これは意味をなさないし、この数字ってゆゆしき数字だと思っているんです。

100を超えている学校があるとしたら、当然そこはどのような授業をやっているかっていうことを、いい面をちゃんと分析して、それをほかの学校に周知しないと、ただずっと100を割っているんです、100を割っているんですって説明だけになっちゃっているんじゃないかなっていう心配なんです。だから何もやってないというふうに思われちゃう。そこにぜひ着手をしてほしいと思うので、今、澤田委員から出た言葉をもとにして、何がこの数値を下げているのかという要因、学校別に見ることと、ちゃんとそれを超えているところがあるとしたら、どうしてそこは越えられているのかっていうことを知らしめて、改善を図ってほしいなというふうに思っているんです。

(荒川委員)

すみません。澤田委員と教育長のお考えの部分とも共通する部分があるのかもしれないんですけども、全国平均からかなり離れているというこの中で、それぞれの学校の取り組みなど、多分あると思うんですけども、この結果を基に、今の担任が自分のクラス、こういう状況なんだということを、しっかり見つめて、昨年の結果ではあるんですけども、何が足りないのかというあたりをちゃんと今後の授業に生かすような手だてみたいなものを、やはり委員会のほうから何かお示ししていただければと思います。一人一人の先生方が自分のクラスの子どもたちにどういう手を打てば、よいのかというめあてをもって授業に取り組んでいらっしゃると思いますので、先ほどお話にあった向上している学校の取り組みなどでよかったようなことなどを、ぜひ把握して、市内に広めていただけたらありがたいと思っております。

それともう一点なんですけれども、いじめのサインとかストレスに対してというところも、とてもやっぱり気になるところでありますので、このあたりも各学校でも様々な工夫をされているとは思いますが、先生お一人お一人のお力が、さらに向上するような研修であるとか、学校内での取り組みですとか、よりよい校内研修などしていただければありがたいと思っております。

意見になりますけれども、以上でございます。

(元木委員)

8ページの生活・学習習慣の学習習慣です。こちら小学校の4年生、5年生が低い値が出ていると思います。また、質問紙調査における、14ページのところの21番、学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの勉強等をしているかというところなんですけど、こちらについては、全国平均と比べて13.1ポイントも低い状態になっているところを見ますと、やはり学校だけではなく、家庭での勉強というのにも必要があるのではないかと思いますので、先ほど、荒川委員、澤田委員、そして教育長から答弁もあったとおり、改善する方向性として、そういった保護者への働きかけというところも含めて検討いただければと思います。よろしくお願いします。

(新倉教育長)

これは話が飛んでしまって怒られるか分かりませんが、生涯学習課が社会教育委員さんのほうに、家庭教育の在り方についてという形で何かお聞きするというふうに覚えていたんですが、仮に、そこに出すデータとして使える部分があるんだったら、この質問、アンケートの部分です、個別だから数字は別。こう

いう結果が出ているということをぜひ知らしめていただいて、その対策としてどんなことがあるかというご意見をいただいてもらうようにしていただけないかなと思っているんですが。

（教育総務部長）

今、教育長からお話ありましたとおり、今年度、来年度、2か年かけて、社会教育委員会議のほうで家庭教育の在り方をテーマにご提言いただくということで、今ちょうど検討を始めているところです。今年度から検討を始めておりますので、ちょうど今まだ現状分析の段階です。ですので、今回、質問紙調査の中でかなり参考となるデータがございますので、次回の会議において、こういった現状についてお話をさせていただきたいというふうに考えております。

（川邊委員）

教科別結果のところなんですけれども、こちらのところで、作文の無解答率であるんですけれども、作文の無解答率ということは、まるきり何も書いていないということでしょうか。

（教育指導課長）

委員おっしゃるとおりで、無解答というのは、一文字も記されていないということは無解答という判断をして集計しています。

（川邊委員）

そうすると、原因は考える力というところが、与えられた問題は自分で答えるけれども、それ以上の自分で考えてやるということが育っていないなというような感じに見ておりますので、いろいろデータ出ていますけれども、やはりその辺のところももう少し丁寧に指導をしてもらいたいなという気がしました。

（新倉教育長）

この辺の無解答率が高いことについては、どういうふうに教育指導課なり、あるいは各学校は理解しているんですか。どう改善をしようというふうに。

教育指導課長、これは申し訳ない。報告の項目なので、教育指導課長だけではなく、各学校長を経験した方のあれですと、これまでこういう学習状況調査で出てきて、ここで言っているような条件を与える、無解答があるということを理解したときに、各学校ではどうしたのかなという部分が分かれば教えてほしい。

(教育指導課長)

教育指導課で3回、計画的に学校に訪問しています。今、ちょうど第2期の時期なんですけれども、今年度、調査結果が学校に返されて、それぞれの学校で分析に取り組んでいるところですので、その状況をまず聞き取っています。

特に解答率というようなところについては、前にも少しお話ししたことですけれども、設問数が多くて、そこにたどり着かないがために無解答というふうなこともあるでしょうし、そもそもその設問を考えて、解答できる力が備わっていないということでの無解答もあると、その辺を学校はどう分析するかというようなことは聞き取って、それに応じた対応をしているところです。明らかに授業の中で、例えば対話による学習活動が少ない、あるいは表現させる活動が少ないというふうなことが学校としての分析に表れているのであれば、そこについていい状態になるように教育指導課としては指導をしているところです。

(新倉教育長)

ご意見もあったとおり、それから教育委員会の点検評価の中でもずっと言われてきているところですので、今回のこの数字が出たということ、もう一回重く感じて、次にどう改善していくかということの具体策を、ぜひ示していただきたいなと思っていますので、そこはぜひお願いをします。

報告事項(3)『行事等の結果について』

ア 市立学校全国・関東大会結果報告について

(保健体育課長)

それでは、保健体育課から、市立学校全国・関東大会出場選手の結果についてご報告いたします。

初めに、1、全国・関東中学校体育大会への出場者結果についてです。

資料1ページの上段をご覧ください。

(1) 全国大会では、陸上競技において、女子共通走り高跳びで神明中学校2年生の武市七美さんが4位入賞を果たしました。

(2) 関東大会では、陸上競技において、男子2年100メートルで大津中学校2年生の岩野喜一さんが3位入賞を果たしました。

このほか、資料に記載のとおり、水泳競技、卓球、柔道、次のページに移っていただいて、相撲、剣道の各種目において、惜しくも入賞は逃したものの、多くの生徒が全国・関東中学校体育大会に出場し、健闘いたしました。

2ページ中段をご覧ください。

2、市立横須賀総合高等学校、運動部の全国大会出場結果について報告いたします。

(1) 全日制より、アーチェリーにおいて、男子個人、3年次生の浦田唯さんが4位入賞、また、(2) 定時制より、陸上競技において、男子走り高跳びで1年次生の佐々木結翔さんが3位入賞をそれぞれ果たしました。

このほかにも、全日制アーチェリー部、定時制陸上競技部、柔道部、次のページに移っていただいて、バスケットボール部の生徒がそれぞれ全国大会に出場し、健闘いたしました。

続いて、3、市立横須賀総合高等学校、文化部の全国大会出場結果について報告いたします。全日制、ワープロ&検定部から4名の生徒が全国大会に出場し、健闘いたしました。

以上で報告を終わります。

(新倉教育長)

通常で定時制だけの生徒というのは、部活動の時間というのは、いつ練習するんですか。通常ですと、3時か、あるいは5時からの授業になっちゃっていると、この子どもたちが部活動をやる時間帯というのは、どこにあるのかな。

(保健体育課長)

今どうかというところは、ちょっと現状、分らないです。私の経験で言うと、定時制を総合高校に、研究授業の際に見に行かせていただいたことがあって、授業の後、部活動をとという形で、アリーナとかを持ってされていたという記憶がございます。

(新倉教育長)

というのは、授業は多分8時ぐらいで終わるとしたら、その後にやっているということなんですか。

(保健体育課長)

というふうにその当時は行われていたので、そういう認識です。確認をしてみます。

(新倉教育長)

そういう意味で、男子の走り高跳びとか円盤投げだとかというのは、グラウンドを使うじゃないですか。というと、夜間照明の下でやっているという状況なのですか。

(保健体育課長)

ちょっと総合高校のほうに確認してみますが、総合高校はグラウンドに夜間照明がたしか設置されていたと思われるので、ちょっとその時間等も含めてどのような活動の状況なのかというのは、聞いてみたいというふうに思います。

(新倉教育長)

あと保健体育課のほうから競技の指導員だとかの助成をしているかと思うんですけども、これは定時制にも当然ついていることで考えていいんですか。

(保健体育課長)

そのように認識をしておりますが、ちょっと今現在、どのような具体的な数値というのは、手持ちがないので、そこも含めて一度調べてみます。

(理事者報告なし)

(委員質問なし)

○ 教育長 閉会を宣言

6 閉会及び散会の時刻

令和6年9月19日(木) 午前10時8分

横須賀市教育委員会

教育長 新 倉 聡